

## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

### 1. 現代の社会状況

#### (1) 人口減少と高齢化の進展

日本の人口は、2008年（平成20年）以降、若干の増減を繰り返し減少傾向にあり、2030年（令和12年）にかけて20代・30代の若い世代や約2割減少するほか、老年人口（65歳以上の人口）が総人口の3割を超え、生産年齢人口（15歳以上65歳未満の人口）の減少が加速すると予測されています。本市でも、同様に少子高齢化が進行することが想定されます。

少子化の進行は、子どもたちが集団の中での遊びや学習、切磋琢磨する機会の減少を招きます。多様な人間関係を学び、社会性を育むためには、自然体験や社会体験の機会を充実させ、様々な経験をすることが必要です。また、高齢化の進行は、心豊かで充実した人生を送るために、生きがいづくりに繋がる学習活動の機会があること、次世代への文化継承の機会が重要となります。

#### (2) 急速な技術革新とグローバル化の進展

高度情報化の進展により、私たちの生活でもスマートフォンなどの情報通信技術（ICT<sup>1</sup>）の利活用が世代を超えて広がり、現在の社会は『知識基盤社会<sup>2</sup>』であるとされています。また、IoT<sup>3</sup>やビッグデータ<sup>4</sup>、人工知能（AI<sup>5</sup>）等を始めとする技術革新が一層進展し、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0<sup>6</sup>）が2030年頃に到来すると予想されています。また、あらゆる場所でグローバル化は加速し、情報通信や交通分野での技術革新により、私たちの生活圏も広がっています。

本市においては、GIGAスクール構想の加速を受けて、児童生徒1人1台のパソコン（PC）を使える環境を整備します。また、東京2020パラリンピック競技大会（香港 ボッチャ競技）のホストタウンとして、外国人と地域住民の交流が行われます。

このことから、必要な情報を選択する能力や情報受発信に関するモラルについての教育、直接体験の不足や人間関係の希薄化等の解決に向けて、行政、学校、家庭、地域が連携・協力して取り組んで行かなければなりません。また、このグローバル化の中で、互いを尊重し認め合う社会を作り上げていくためには、日本と他国の伝統文化を学び、相手を尊重するコミュニケーション能力を身に付けることが求められます。

<sup>1</sup> ICT: Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。

<sup>2</sup> 知識基盤社会(knowledge-based society):新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会。2005年の中央教育審議会答申で示された。

<sup>3</sup> IoT: Internet of Thingsの略。「物の」インターネット。様々な「物」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み。

<sup>4</sup> ビッグデータ:従来のデータベース管理システムなどでは記録や保管、解析が難しいような巨大なデータ群。

<sup>5</sup> AI: Artificial Intelligenceの略。人工知能。

<sup>6</sup> Society 5.0:①狩猟社会、②農耕社会、③工業社会、④情報社会に続く、人類史上5番目の新しい社会。

## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

### (3) 安心・安全と学びの確保

家族形態の変化や、インターネット利用の低年齢化、いじめや児童虐待、子どもを狙った犯罪の増加や複雑化など、子どもを取り巻く環境は大きく変化し、深刻な問題が増えています。子どもの教育機会を守るために、学校・家庭・地域が一体となった取組が求められています。

また、東日本大震災や熊本地震、関東・東北豪雨などを契機に、震災をはじめとする災害への意識も高まっています。災害が発生した際、地域の協力体制やボランティア活動への取組が復旧・復興の大きな力となります。安心・安全に関する学びを通して、復興を支える人災育成や地域再生力を高め、地域の人々の結びつきを強化すると共に、いかなる時も学び続けられる環境整備が必要となります。

### (4) ライフスタイルの多様化

様々な分野の進化により、一人ひとりの人材の質を高める「人づくり革命」や、一億総活躍社会の実現に向けた「働き方改革」の推進が求められています。また、長寿化により「人生100年時代<sup>7</sup>」と言われ、100年という長い期間をより充実したものにするためには、幼児教育から大学教育、さらには社会人以降の学び直しに至るまで、生涯にわたる学習が重要になってきます。

余暇時間の活用や退職した世代の増加等を背景に、ライフスタイルや社会環境の変化による価値観の多様化を踏まえ、多彩な趣味、スポーツ、ボランティア活動への意欲を持つ人への支援と、学習環境の充実が求められています。

## 2. 国・県及びみどり市の生涯学習の動向

国は「第3期教育振興基本計画について（答申）」（2018年）において、今後の教育行政に関する基本的な方針として「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」「社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する」「生涯学び、活躍できる環境を整える」「誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する」「教育政策推進のための基盤を整備する」の5つを掲げています。「人生100年時代」を見据えた生涯学習の推進や、多様なニーズに対応した教育機会の提供など、今後5年間の教育政策の目標と施策群を示しました。

それを受けて、群馬県は、群馬の未来を担う人づくりを推進するため、「第3期群馬県教育振興基本計画」を策定し、学校と地域が連携・協働し、子どもたちが予測困難な未来をたくましく生きる力を育み、誰もが自己の可能性を高め、豊かな人生を送り、主体的に社会と関わることができるよう群馬県における教育の振興のための施策の基本的な方向性を定めました。

本市では、2011年に「みどり市生涯学習振興計画」を策定し、2016年には、より豊かな市民のための生涯学習社会の実現を図るため、「第2期みどり市生涯学習振興計画」を策定しました。

---

<sup>7</sup> 人生100年時代:リンダ・クラットン氏が寿命が100歳前後まで伸びていくにあたって、国・組織・個人がライフコースの見直しを迫られているという内容を表す言葉。

### 3. 生涯学習に関する実態調査結果

#### (1) 調査概要

市民の生涯学習に関する諸活動の状況や行政に対する要望を把握するため、令和2年6月に「生涯学習活動の現状」、「施設への要望」などの項目について、16歳以上の市民の中から、地区別・男女別に合計2,000人を無作為に抽出し、無記名による郵送法によるアンケート調査を実施しました。

#### (2) 主な調査結果

##### 質問1 回答者について

有効回収数 563人、有効回収率 28.15%

性別 女性 328人 (58.26%) 男性 230人 (40.85%) 無回答 5人 (0.89%)

居住地域 東町 25人 (4.44%) 大間々町 210人 (37.30%) 笠懸町 324人 (57.55%)  
無回答 4人 (0.71%)

(SA)

##### 質問2 生涯学習の認知度

「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせると約42%で、前回と比べ約13ポイントの減少となっている。「よくわからない」と「わからない」を合わせると、前回よりも約7ポイント増えています。

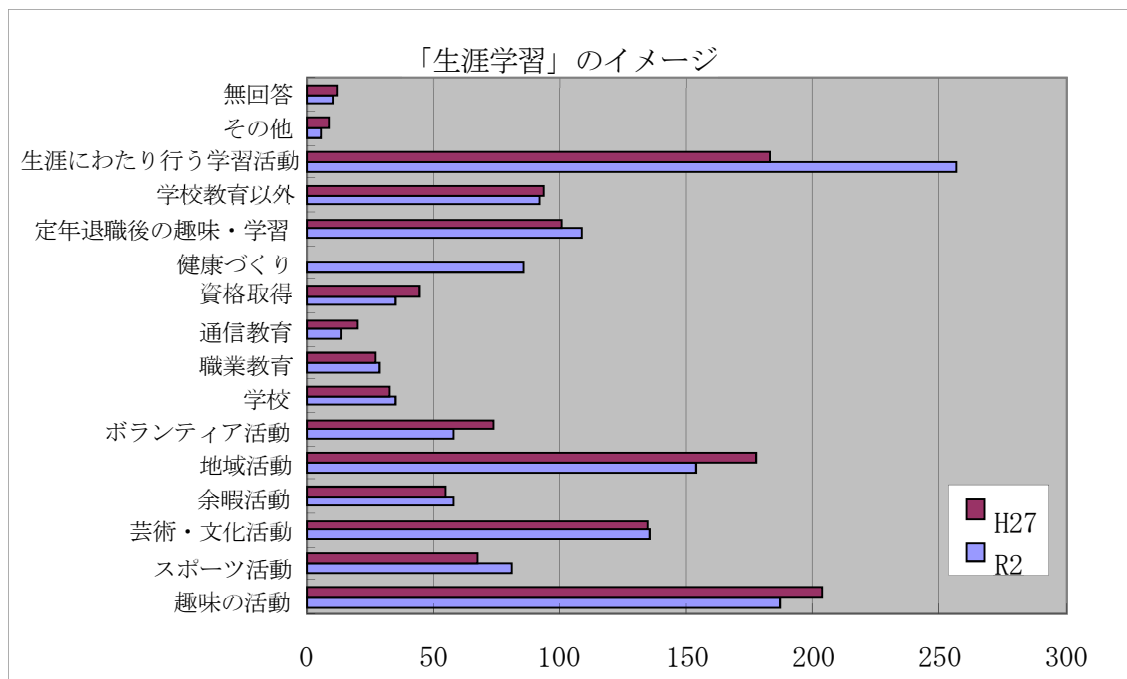
	回答数	割合	前回
よく知っている	40	7.10%	12.60%
だいたい知っている	195	34.64%	43.11%
聞いたことはある	205	36.41%	30.31%
よく知らない	57	10.12%	7.68%
わからない	54	9.59%	5.31%
無回答	12	2.13%	0.98%
計	563	100.00%	

##### 質問3 「生涯学習」と聞いた時のイメージについて

多くの市民は、「生涯にわたり行う学習活動 (45.65%)」を挙げていて、生涯学習を讀んで字のごとく「生涯にわたり行う学習活動」と捉えている方が半数近くいるということは、生涯学習についての理解不足や具体的なイメージが浮かびづらいことが考えられます。また、3位の「地域活動」と答える市民の割合が高く、成人し社会人になることにより地域や社会と関わる機会が増えていくのではないかと考えられます。

イメージについて前回と今回はほぼ同じ傾向であり、自ら行っている学習やスポーツ、サークル活動等が「生涯学習」であるという認識が低いことが伺えます。よって、市民の学びのきっかけづくりや意識化に取り組む必要があります。

## 第2章 みどり市の生涯学習の現状



### 質問4 過去1年間の施設の利用について

回答者の身近にある施設（住んでいる地域にある施設）が多く利用されている傾向は、前回と同様でした。全体的には、文化ホールや美術館・博物館を多く利用する傾向があり、催し物に参加している市民が多いことが推測されます。

#### 【東町内の施設利用】

##### 上位利用施設

1位	富弘美術館	9.24%
2位	地域内の集会施設	3.55%
3位	童謡ふるさと館	3.20%

##### ※前回上位利用施設

1位	富弘美術館	9.05%
2位	公民館図書室	5.31%
3位	地域内の集会施設	4.52%

#### 【大間々町内の施設利用】

##### 上位利用施設

1位	大間々図書館	17.94%
2位	ながめ余興場	11.90%
3位	保健センター	9.77%

##### ※前回上位利用施設

1位	大間々図書館	19.29%
2位	ながめ余興場	14.96%
3位	地域内の公民館、集会所	9.84%

#### 【笠懸町内の施設利用】

##### 上位利用施設

1位	笠懸野文化ホール	26.29%
2位	笠懸図書館	23.09%
3位	笠懸公民館	20.96%

##### ※前回上位利用施設

1位	笠懸図書館	25.00%
2位	笠懸野文化ホール	23.43%
3位	笠懸公民館	19.69%

## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

また、各地域において、公民館や集会施設が市民活動の拠点として活発に利用されています。「無回答もしくは利用していない」と回答した割合は、3町内で大きな差があります。また、いちばん利用している笠懸地域でも、利用者は5割強にとどまっています。公民館の利用割合も3町内で大きな差が見られました。各種運動施設の利用割合を合計すると、東地域が約19%、大間々地域が約38%、笠懸地域が約55%でした。笠懸地域の利用割合が高いのは、桐生大学グリーンアリーナを多くの市民が利用しているためと考えられます。

### 質問5 過去1年間の継続的活動の有無について

継続的に活動があったと回答した市民は19.89%で、前回の回答（18.70%）とほぼ変化がありませんでした。年齢を重ねるにつれ、講座やサークルに参加する人が多くなり、60歳代以上になると、参加した講座やサークルの種類が多岐にわたる事がわかりま

(SA)

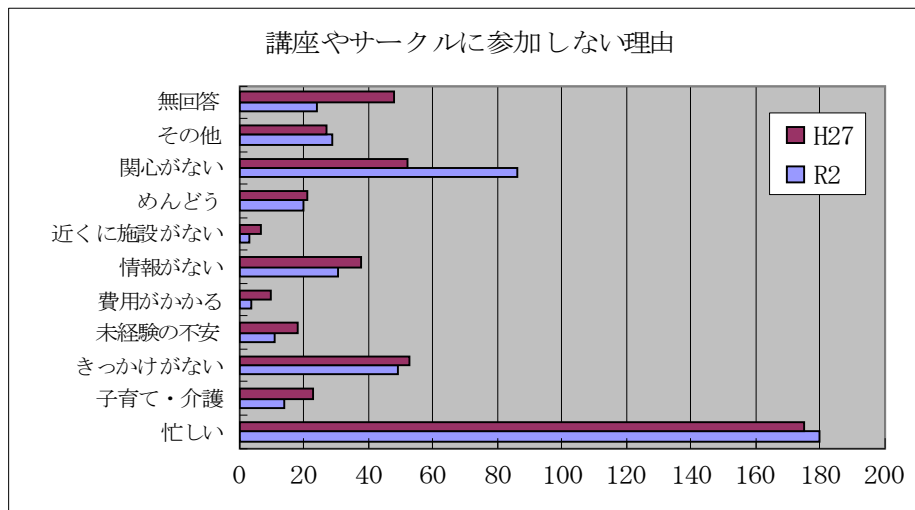
	回答数	割合	前回
経験あり	112	19.89%	18.70%
経験なし	435	77.26%	76.57%
無回答	16	2.84%	4.72%
計	563	100.00%	

す。健康に関する講座やサークルに参加する人は、70歳代になると急激に増え、運動系の講座やサークルは、参加する人が30歳代から増え始め、60歳代以上も多くの人が参加しています。

### 質問6 過去1年間の継続的活動に参加経験のない理由について

質問5で参加経験なしと回答した77.26%（435人）の理由です。前回の結果同様、すべての年齢で「忙しい」を活動しない（活動できない）理由としています（前回43.44%→今回39.91%）。そして、「関心がない（19.07%）」「きっかけがない（10.86%）」「情報がない（6.87%）」のいずれかが続いていました。前回との大きな違いは、「関心がない」を理由に挙げた市民の割合です。20～40歳代は興味や意欲が無い、60歳代以上になると健康面を理由に参加しないと回答した人が多かったのも、市民のニーズを反映した魅力的な講座の企画、サークルの立ち上げ等の工夫が必要となります。

また市民の学びのきっかけづくりとなるような様々な学習情報の提供を行っていく必要があります。



## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

### 質問7 最も関心のあるものについて

年齢を問わず、「ボランティア」が上位となっており、関心の高さがうかがえます。また各年代とも、様々なスポーツに関心を持っている人が多いことがわかります。60歳以上の人の特徴としては、「環境」「福祉」「歌・コーラス」「カラオケ」に関心を持っていることが挙げられます。30～40歳代を中心に「ヨガ・ピラティス」に関心を持っている人が目立ちました。

### 質問8 学んでみたい（学習活動をしたい）理由について

学んでみたい（学習活動をしたい）理由（2つ以内の回答）について、下表のとおり回答者の563人（89.70%）から回答がありました。「健康・体力づくり」が38.54%で1位、前回の結果より0.63ポイント減少しています。前回同様1位から5位までランクは変わらず「健康・体力づくり」「生きがいを持つ」「趣味を豊かにする」「人間関係を豊かにする」「教養を高める」と続き、活動を通して多くの人とふれあう（学び合う）ことで、自分自身の教養を高め、健康で豊かな人生を送ろうと考えている人が多いことがうかがえます。

(MA)

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
生きがいを持つ	159	28.24%	27.95%
趣味を豊かにする	149	26.47%	26.77%
教養を高める	76	13.50%	12.40%
必要な知識を得る	68	12.08%	11.42%
健康・体力づくり	217	38.54%	39.57%
人間関係を豊かに	91	16.16%	21.85%
仕事に必要	14	2.49%	2.56%
社会に役立つ活動	54	9.59%	8.07%
活動場所が便利	4	0.71%	0.39%
なんとなく魅力的	23	4.09%	2.95%
お金がかからない	18	3.20%	3.15%
時間のゆとりがある	10	1.78%	3.74%
その他	14	2.49%	3.35%
無回答	58	10.30%	10.04%
計	955		

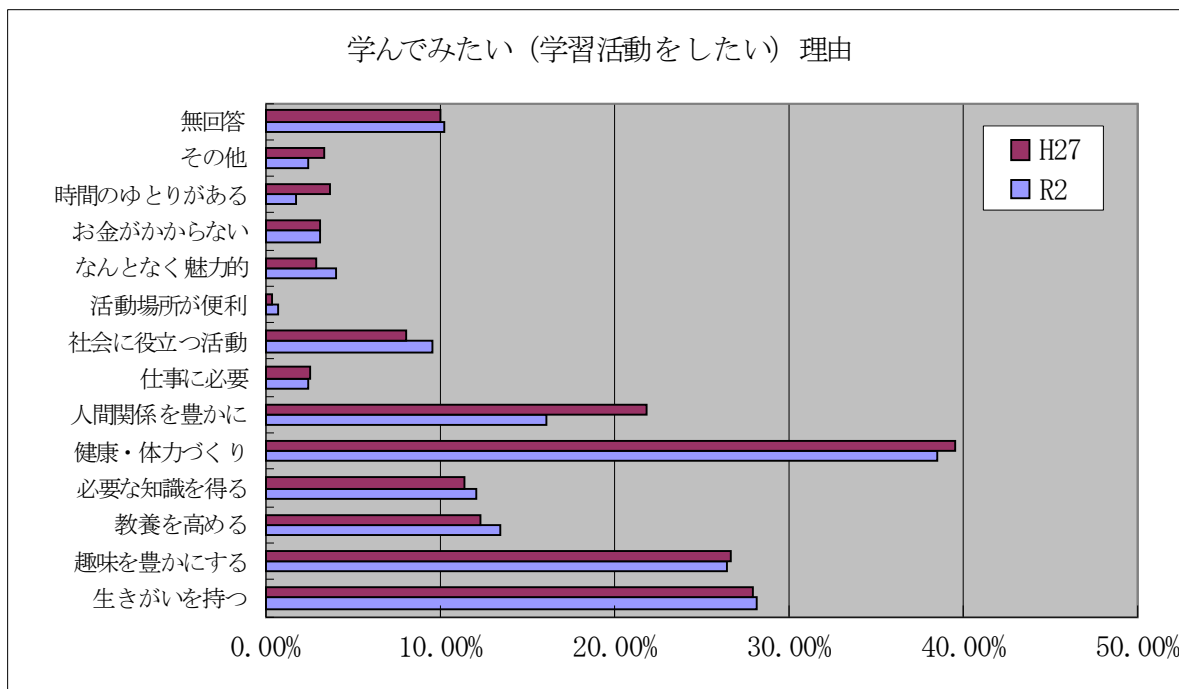
#### 上位

1位	健康・体力づくり	38.54%
2位	生きがいを持つ	28.24%
3位	趣味を豊かにする	26.47%
4位	人間関係を豊かに	16.16%
5位	教養を高める	13.50%

#### ※前回上位

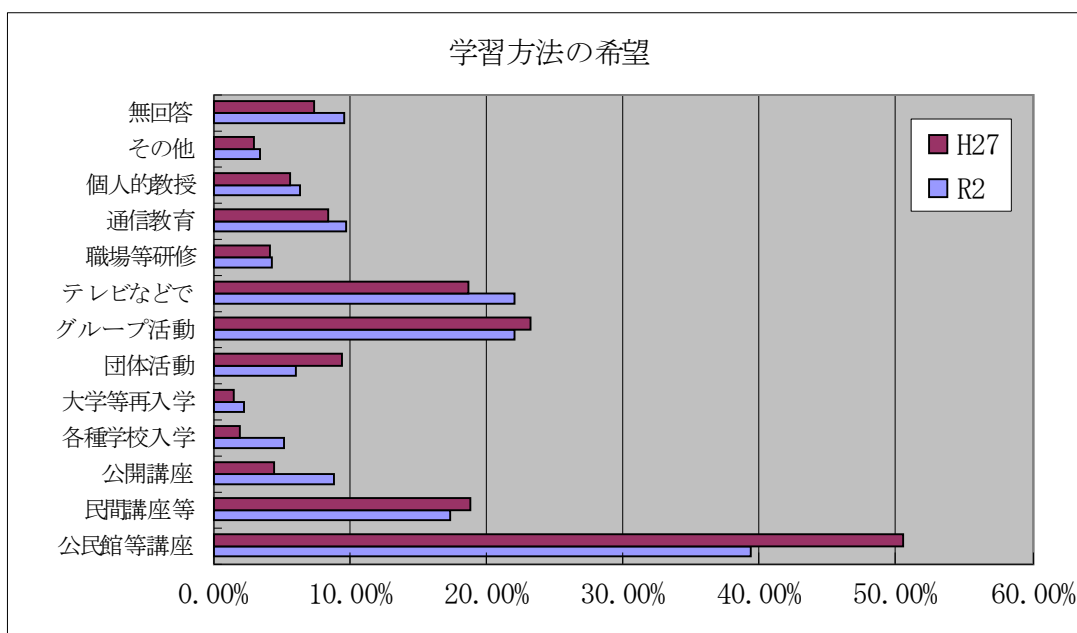
1位	健康・体力づくり	39.57%
2位	生きがいを持つ	27.95%
3位	趣味を豊かにする	26.77%
4位	人間関係を豊かに	21.85%
5位	教養を高める	12.40%

## 第2章 みどり市の生涯学習の現状



### 質問9 学習方法の希望について

前回と同様、「公民館講座」が1位、次いで「グループ・サークル活動」、「本やテレビ、ラジオなどを利用してひとりで」が2位（同位）となっています。身近な施設である公民館等で開催される教室や講座を望む市民が多数でしたが、前回と比べると「公民館等の講座」が10ポイント以上も減少しており「テレビ・ラジオ」「民間講座」「通信教育」などが増加しています。この事は自分の興味や好みに合った学びを行う人が増えている結果と考えられますが、時節柄、新型コロナウイルスに因る3密自粛の影響も考えられます。



## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

### 質問10 活動を希望する時間帯について

(SA)

活動を希望する時間帯について、休日の夜間を除いてほぼ同じ割合になっています。前回と比べると休日を選択している人が増加している傾向があります。

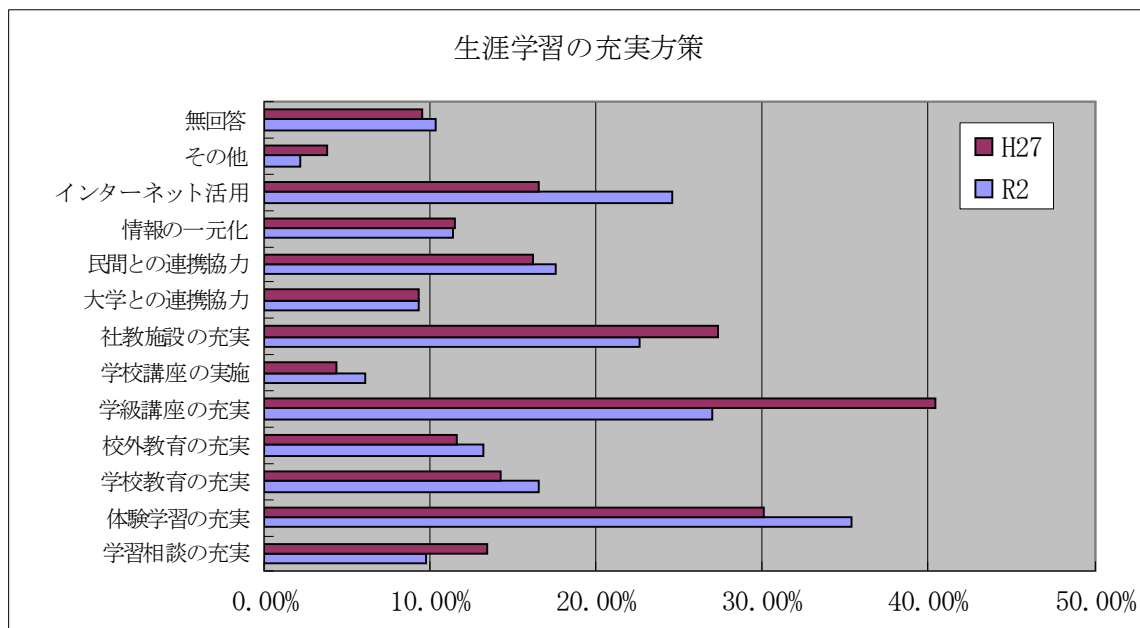
市が市民向けの講座等を企画する際は、主な対象とする年齢層がどの時間帯を希望しているのかを考慮し、検討する必要があります。

	回答数	割合	前回
平日午前	105	18.65%	20.67%
平日午後	101	17.94%	22.05%
平日夜間	97	17.23%	20.67%
休日午前	102	18.12%	13.19%
休日午後	79	14.03%	10.83%
休日夜間	21	3.73%	3.15%
無回答	58	10.30%	9.45%
計	563	100.00%	

### 質問11 生涯学習の充実方策について

生涯学習に関する充実策としては、幼少児からの体験学習の充実を希望する市民が最多(35.35%)でした。前回1位だった「公民館等の講座」が13ポイントも減少し2位になり、半面「インターネットの活用」が8ポイントも増加したのは、新生活様式(ステイホーム)の影響も考えられます。質問9の「学習方法の希望」で最も多かった「公民館などの講座・行事などで」という結果と、「インターネットの活用」を求める声が増加しているという結果を踏まえて、誰もが気軽に参加できるよう幅広い分野での教室や講座の開催や気軽集える場の設置など、きっかけづくりにつながる取組と施設の機能(ネット環境等)の充実が必要と考えられます。

「体験学習の充実」については、様々な生活体験や活動体験を通じて自ら考え学ぶことができる機会を増やすことが大切であることから、各教育機関でも「体験学習」に力を入れています。しかし、その情報が行き渡っていない状況も考えられ、PRの工夫が必要です。





## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

(MA)

### 質問12 公民館の利用について

公民館を利用する目的は「イベント参加」が最も多く、次いで「グループ・サークル活動」「会議」となりました。学級講座での利用が少ないことから、魅力的な講座の提供とともに、そこに参加する市民が自主的に企画した新規講座・グループ活動の起ち上げ等を支援・協力することが重要であると考えられます。

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
グループサークル活動	74	13.14%	14.57%
学級講座参加	31	5.51%	5.31%
会議	69	12.26%	16.73%
イベント参加	113	20.07%	19.69%
その他	20	3.55%	4.53%
利用していない、無回答	343	60.92%	54.33%
計	650		

### 質問13 公民館への要望について

(MA)

具体的な要望として、「入りやすい雰囲気」、「情報発信」、「学級講座の充実」が挙げられている点は前回結果と同様でした。しかし、回答の中で最も多く占めたのは「要望なし」と「無回答」で半数を超えています。これは現状に満足しているだけでなく、公民館自体に期待してなかったり、親しみがなかったりすることも考えられます。市民のニーズに応じた魅力ある活動の充実と情報発信が大切と考えられます。

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
学級講座の充実	54	9.59%	11.42%
情報発信	128	22.74%	29.92%
入りやすい雰囲気	161	28.60%	30.51%
発表の場の提供	26	4.62%	6.89%
資料提供助言指導	15	2.66%	5.31%
要望なし	185	32.86%	31.30%
その他	18	3.20%	3.54%
無回答	104	18.47%	14.37%
計	691		

### 質問14 図書館の利用について

(MA)

「利用していない、無回答」の割合が多く、次に「資料借用」、「調べごと」が続く結果でした。全般に利用者が減っていることから、図書館に対する魅力が感じられなかったり、インターネット等の活用により図書館を利用する意義が感じられなかったりすることが要因と考えられます。読書を楽しむために来館する市民が多い施設ですが、調べごとで来館した利用者への適切なレファレンスサービス<sup>8</sup>及びレフェラルサービス<sup>9</sup>も図書館の大きな役割のひとつです。それぞれの利用者が必要と

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
資料借用	165	29.31%	31.50%
調べごと	80	14.21%	17.32%
会議	6	1.07%	2.56%
学級講座	5	0.89%	1.57%
勉強	19	3.37%	3.94%
講演会映画会	8	1.42%	3.74%
その他	17	3.02%	1.97%
利用していない、無回答	323	57.37%	53.94%
計	623		

<sup>8</sup> レファレンスサービス:何らかの情報あるいは資料を求めている図書館利用者に対して、図書館員が仲介の立場から求められている情報あるいは資料を提供ないし提示することによって援助すること。また、それに関わる諸業務のこと。

<sup>9</sup> レフェラルサービス:利用者からの情報の要求に対して、その分野の適切な専門家ら専門機関に照会して情報を入手し、提供するサービス。また、そうした専門家や専門機関を利用者に照会するサービス。

## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

する資料や情報を速やかに提供できるように体制を整えておく必要があります。

(MA)

### 質問15 図書館に対しての要望について

上位3の順位は前回と変わらず、「要望無し」「蔵書の充実」「開館時間の延長」でした。「蔵書の充実」「児童書の充実」を希望する人が前回よりも合わせて9ポイント以上増えています。「要望なし」「無回答」を合計すると半数を超えていて、この結果は過去調査と同様な傾向でした。講座や蔵書、サービス等を積極的にPRし、図書館を利用していない市民や無関心層を取り込む図書館運営が求められます。図書館に対する

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
蔵書の充実	160	28.42%	21.06%
レファレンスの充実	28	4.97%	6.50%
児童書の充実	35	6.22%	4.13%
郷土資料の充実	19	3.37%	4.13%
移動図書館の実施	17	3.02%	1.57%
講演会・映画会実施	46	8.17%	10.43%
開館時間の延長	48	8.53%	15.16%
要望なし	183	32.50%	25.20%
その他	32	5.68%	5.91%
無回答	116	20.60%	25.39%
計	684		

様々な要求があることを踏まえ、市立図書館としてできることや、やらなければならないことを見極め実行していく必要があります。「開館時間の延長」は前回よりも約7ポイント低い回答となっているのは、土・日曜日の開館時間の延長が関係していると思われます。資料購入のリクエストについては様々な意見が寄せられますが、全てに応えることは難しい状況です。限られた資料費で最大限の効果を発揮するためには、みどり市立図書館資料収集方針に従って適切に資料選定するとともに、県立図書館をはじめとする他の公共図書館と連携し、相互貸借等を十分に活用しながら利用者の要望に応えることが重要です。

(MA)

### 質問16 岩宿博物館への期待

全体として大きな変化は見られませんでした。好意的な記述も多く見られましたが、体験学習を中心に魅力ある企画や展示内容のアピールなども考えて行く必要があります。

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
岩宿遺跡の知識	99	17.58%	19.29%
郷土の歴史	125	22.20%	24.02%
体験学習	192	34.10%	30.12%
友の会活動参加	58	10.30%	8.27%
全国にアピール	127	22.56%	27.76%
要望なし	133	23.62%	20.67%
その他	14	2.49%	4.53%
無回答	56	9.95%	10.83%
計	804		

(MA)

質問17 大間々博物館への期待

上位3位の順位は変わらず「楽しめる企画展」「郷土の歴史」でした。また、各選択肢の回答割合も大きな変化はみられませんでした。「行った事が無い」「どのようなところか全く知らない」「どこにあるのかも分からない」といった記述からも、市民に周知されているとは言いがたい状況です。存続させる意義も含めて、岩宿博物館との連携も考えていく必要があります。

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
郷土の歴史	117	20.78%	20.87%
化石・恐竜資料	86	15.28%	16.73%
楽しめる企画展	176	31.26%	30.71%
体験型事業	77	13.68%	15.75%
立体映像プログラム	41	7.28%	7.48%
HPの充実	27	4.80%	5.71%
要望なし	163	28.95%	26.77%
その他	21	3.73%	4.13%
無回答	72	12.79%	14.57%
計	780		

質問16・17 岩宿博物館、大間々博物館について

岩宿博物館に関しては、前回より4ポイント増加し「体験学習」望む声が多くありました。また「岩宿遺跡や郷土の歴史について知識を深める」事業への要望や「岩宿遺跡を通して市を全国にアピールする」ことが期待されています。大間々博物館に関しても、前回同様「楽しめる企画展」を望む声が多数ありました。

岩宿博物館・大間々博物館ともに、「郷土の歴史」に関する要望が高いため、展示方法の工夫を行うとともに、学芸員による出前講座等の教育普及・学習支援活動を実施して史料に関する理解の増進に努める必要があります。

質問18 笠懸野文化ホールについて

(MA)

多くの市民が、ホールの本来の目的である「コンサート」「講演会や映画会」を希望しています。前回に比べ「小中学生が体験できる事業」「乳幼児向け事業」の要望が高まっています。現在、文化ホールでは子ども向けの事業や市民が日ごろの活動の成果を発表する場の提供も行っておりますが、今後もより多くの市民にホールを利用してもらえるような事業の企画立案を継続していく必要があります。

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
体験型事業	99	17.58%	18.70%
乳幼児向け事業	49	8.70%	6.89%
小中学生体験事業	93	16.52%	11.02%
講演会・映画会	172	30.55%	34.65%
古典芸能	54	9.59%	9.65%
コンサート	251	44.58%	36.61%
要望なし	109	19.36%	17.52%
その他	12	2.13%	2.17%
無回答	33	5.86%	10.24%
計	872		

(MA)

質問19 学校についての期待

前回と同様で「要望なし」「学校施設の開放」「公開講座」の順位で、全体的な傾向も大きな変化は見られませんでした。2位の「学校施設(運動場・体育館・図書館)を地域住民にもっと開放する」(31.26%)との要望が前回より3.5ポイント多くなりました。現状、市内小中学校の校庭・体育館の開放が行われていますが(校庭はスポーツ少年団加盟団体にのみ開放)、団体でのスポーツ利用以外の目的においても、学校の持つ機能や施設を開放して、地域住民に学習機会を提供することに対する地域住民の期待が大きいことがうかがえます。

また「小中学校の教員が講師や指導者になる」ことについて、回答した割合が前回の2/3以下になり否定的な記述も書かれていました。また、「公開講座」や「大学・短大などで社会人を対象とした科目・コースを増やす」ことを期待する市民の割合が増加していることから、スキルアップや学び直しを望む市民が多いことがわかります。

	回答数	割合	前回
回答者数	563		
学校施設の開放	176	31.26%	27.76%
社会人対象コース	100	17.76%	17.52%
公開講座	104	18.47%	17.72%
教員等の指導者	35	6.22%	10.24%
要望なし	185	32.86%	31.30%
その他	21	3.73%	3.35%
無回答	61	10.83%	13.19%
計	682		

(MA)

質問20 保健センターについて

前回同様、「健康づくり」「病気予防」が引き続き1位、2位となりました。「母子保健活動」が4ポイント増え、「体力づくり」が4ポイント減少し、順位が入れ替わりました。活動に関しては、好意的な意見も寄せられましたが、気軽に行ける環境(雰囲気)作りを考えていく必要があります。

	回答数	割合	前回
回答者数	563		
母子保健活動	184	32.68%	28.54%
病気予防	210	37.30%	38.98%
健康づくり	235	41.74%	47.44%
体力づくり	181	32.15%	36.42%
関心なし	97	17.23%	14.76%
その他	11	1.95%	1.57%
無回答	41	7.28%	8.46%
計	959		

質問21 幼稚園・保育園が実施する子育て支援について

前回上位だった「預かり保育」「子育て相談」「体験保育」の順位は変わらず、回答数の割合もほぼ同様な結果でした。「一時保育」や「発達障害児の対応」等、検討していく必要があります。

(MA)

	回答数	割合	前回
回答者数	563		
体験保育	143	25.40%	24.21%
園庭開放	100	17.76%	15.55%
子育て相談	173	30.73%	30.91%
預かり保育	206	36.59%	39.37%
家庭教育学級開催	67	11.90%	11.61%
その他	20	3.55%	3.35%
無回答	121	21.49%	22.24%
計	830		

## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

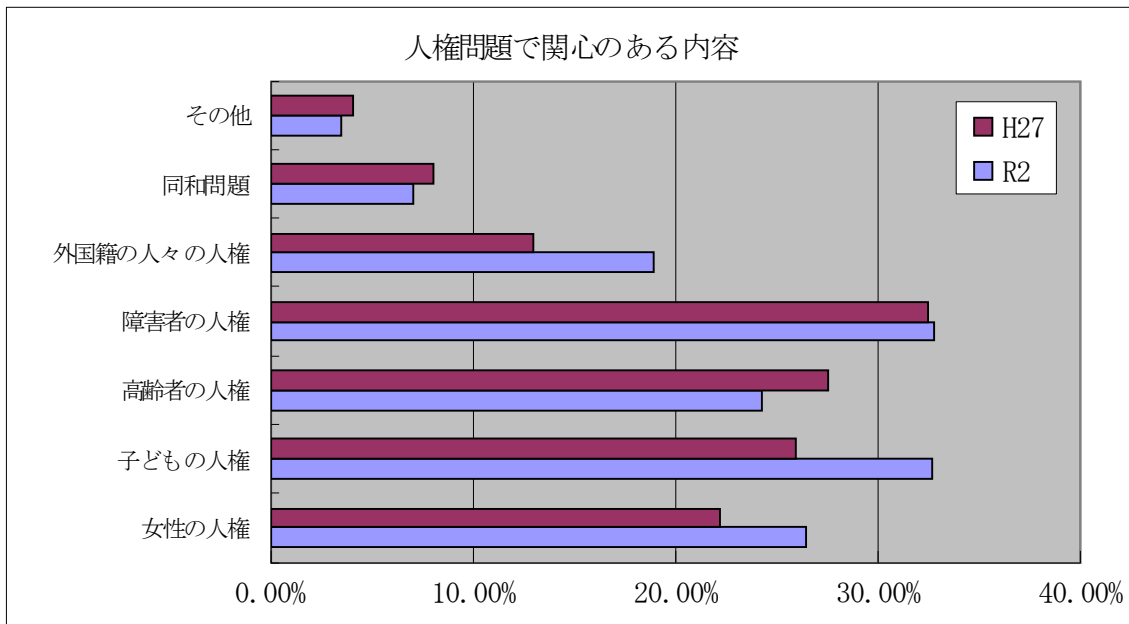
### 質問22 人権問題について

(SA)

人権問題に関心のある市民の割合は「非常に興味がある」と「多少は興味がある」を合わせ前回(65.75%)→今回(66.07%)とほぼ変わりなく、関心のある内容については、「障がい者の人権」が前回に引き続き1位で、「子どもの人権」が3位から2位となりました。

	回答数	割合		前回	
非常に興味がある	52	9.24%	66.07%	10.43%	65.75%
多少は興味がある	320	56.84%		55.31%	
あまり興味はない	146	25.93%	30.20%	23.62%	27.36%
まったく関心なし	24	4.26%		3.74%	
無回答	21	3.73%	3.73%	6.89%	6.89%
計	563	100.00%			

「子どもの人権」「外国籍の人々の人権」が前回と比べ、6ポイント以上増えています。「子どもの人権」について関心のある人が増えた理由として、保護者による子どもへの虐待に関する事件が後を絶たないことと、それに関するマスメディアの報道の影響と考えられます。またネット及び学校内でのいじめによる事件も相変わらず根絶しないためと考えられます。



### 質問23 環境問題について

(SA)

回答した市民のうち87.92%が関心を持っていると答えました。日常生活に密着している問題である「リサイクル」「ゴミ分別」「CO<sub>2</sub>削減」で、前回と比較すると、全回答でポイントが上がっていました。市民が環境問題により一層関心を持つような施策を検討する必要があります。

	回答数	割合		前回	
非常に興味がある	136	24.16%	87.92%	24.80%	85.43%
多少は興味がある	359	63.77%		60.63%	
あまり興味はない	38	6.75%	8.88%	7.87%	9.06%
まったく関心なし	12	2.13%		1.18%	
無回答	18	3.20%	3.20%	5.51%	5.51%
計	563	100.00%			

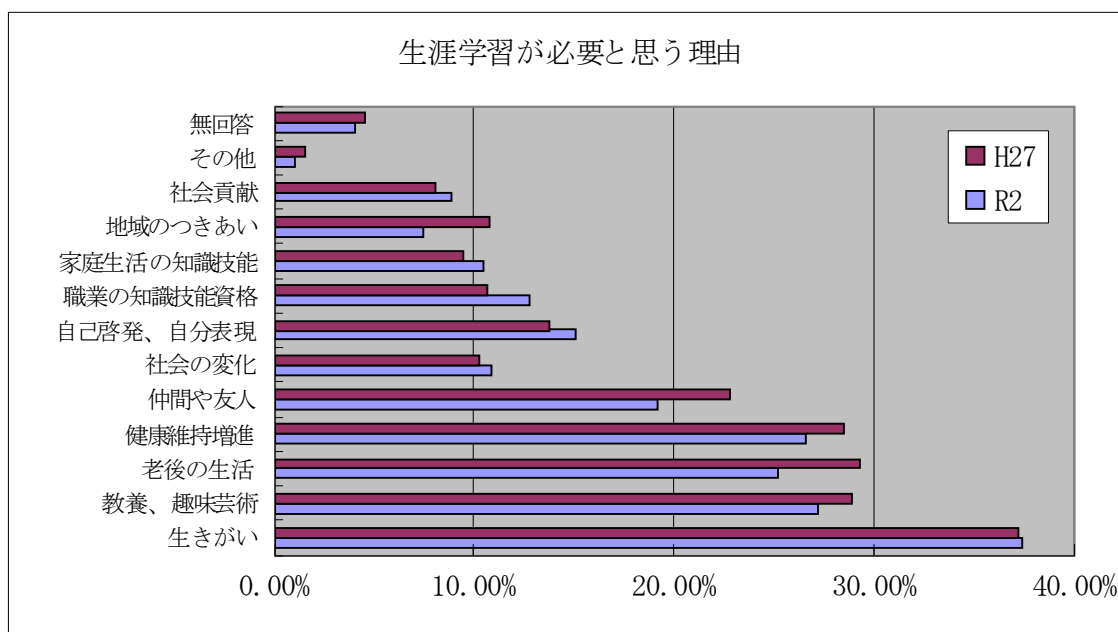
質問24・25 生涯学習の必要性について

(SA)

回答した市民のうち8割近くが生涯にわたって学び続けることが必要だと感じています。しかしながら、「わからない」と回答した市民の割合も多く(15.63%)、生涯学習についての情報を広く周知する必要性があります。また、学ぶ理由として、「働くほかに

	回答数	割合	前回
必要だと思う	447	79.40%	82.68%
必要だと思わない	11	1.95%	2.56%
わからない	88	15.63%	12.01%
無回答	17	3.02%	2.76%
計	563	100.00%	

に生きがいを見つけるため」、「教養を高めたり、趣味芸術を身に付けたりするため」、「健康維持増進」という理由が多くありました。生涯学習を行う目的として、生き生きと健康で豊かな人生を送るため、自らの意志に基づく様々な学びの必要性が認識されています。



## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

### 質問26 活動している生涯学習の分野について

(MA)

前回同様、生涯学習活動をしていない割合が約40%を占めています。質問24で生涯学習の必要性を80%の市民が感じているのに拘わらず、実際に生涯学習活動を実施しているのは60%にも満たないのは、時間・場所の学習環境が整備されていないか、個人のモチベーションに因るものか、精査が必要です。

また年齢・性別に関係なく「スポーツ」や「健康・家庭生活」に関する分野の活動をしている市民の割合が高い傾向にあり、スポーツ活動が最も身近な生涯学習活動と言えます。

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
スポーツ	145	25.75%	26.38%
芸術・文化活動	72	12.79%	13.58%
歴史・文学	30	5.33%	7.48%
社会福祉活動	29	5.15%	4.72%
環境・自然保護	26	4.62%	4.13%
健康・家庭生活	93	16.52%	20.67%
家庭教育・青少年育成	13	2.31%	1.97%
国際交流・語学学習	16	2.84%	3.74%
地域活動	56	9.95%	6.50%
読書	76	13.50%	14.57%
アウトドアライフ	43	7.64%	10.04%
特にない	174	30.91%	27.17%
その他	10	1.78%	1.77%
無回答	64	11.37%	12.20%
計	847		

### 質問27 生涯学習活動の方法について

(MA)

「同好のグループ・サークルなどの仲間と学ぶ」という回答が最も多く、次いで個人（ひとり）で学ぶ市民の割合が高いという結果でした。市民の学習形態は、すべての世代でインターネットやYouTube（ユーチューブ）等を活用して学んでいる様子がかがえ、学級・講座のほか、共通の学習ニーズで構成されるグループ、図書・メディアを活用した個人学習など多様化が進んでいることが推測されます。

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
グループ、サークルの仲間と	145	25.75%	23.62%
ひとりで学ぶ	112	19.89%	16.93%
個人で新聞、雑誌、テレビ	127	22.56%	20.67%
市や地域が開催する講座	56	9.95%	8.66%
先生について習う	48	8.53%	7.87%
職場内の研修	17	3.02%	3.74%
カルチャーセンターの講座	8	1.42%	1.77%
専門学校、大学の公開講座	4	0.71%	1.38%
通信教育、放送大学	8	1.42%	2.36%
その他	8	1.42%	2.17%
無回答	76	13.50%	17.32%
計	609		

## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

### 質問28 取組の活動回数について

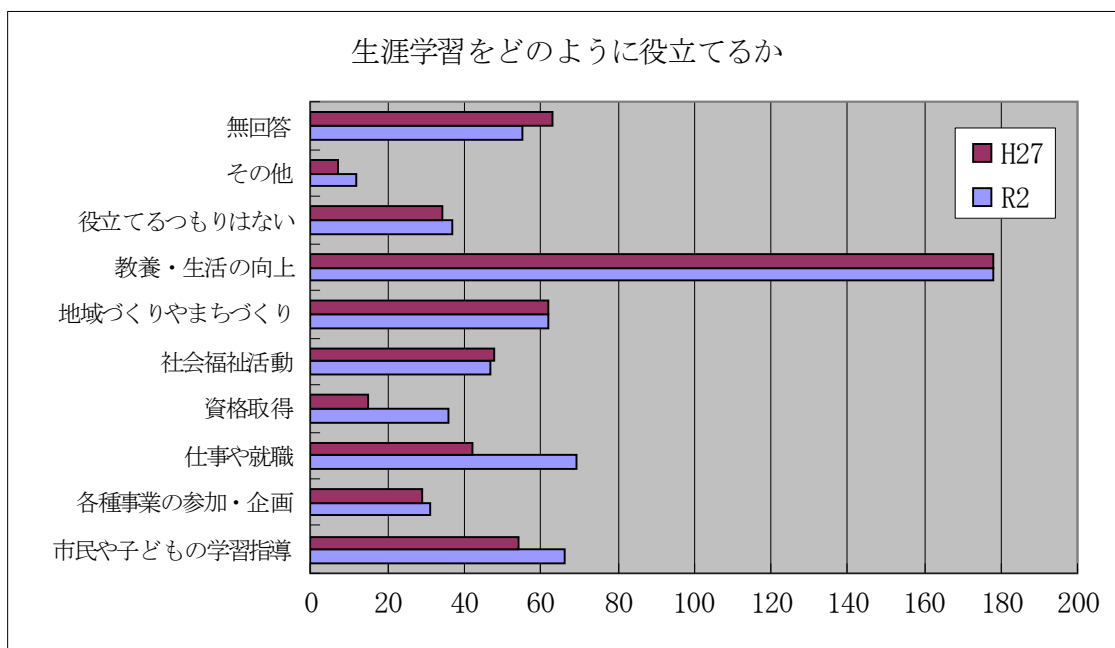
(MA)

「週1回」の取組が圧倒的に多い結果でした。サークルやグループで活動している市民が多い影響だと考えます。それ以外の選択肢の割合はほぼ同じで、5～7%でした。サークルやグループで活動している市民は「週1回」や「月1回」、個人で活動している市民は毎日活動していると推測されます。

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
ほとんど毎日	40	7.10%	8.07%
週の半分	42	7.46%	8.07%
週1回	93	16.52%	20.87%
月2回	42	7.46%	7.09%
月1回	42	7.46%	11.22%
年数回	29	5.15%	
無回答	79	14.03%	17.91%
計	367		

### 質問29 学んだ内容をどのようなことに役立てるかについて

男女ともに「自分や家族の教養・生活の向上」に役立てたいと思っている市民の割合が高く、生涯学習を自分のスキルアップにつなげたいと思っている市民の意識がうかがえます。次に前回6位だった「仕事や就職」が2位に上がり、企業の高度な技術に伴う知識、PCを活用するための知識等スキルアップのための学びを望んでいる人が増加しています。職業生活の中で学習活動を通じて身に着けた知識や技術を、広く地域や社会の中で生かしていくことは地域社会の発展においても大変有意義であるので、役立てる場の開発・拡大について検討する必要があります。そして次に多かったのは、「市民や子どもの学習の指導や手伝い」や「地域づくりや町づくり」「社会福祉活動」が上位に入っており、ボランティア活動に関心が高いことがうかがえます。





## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

### 質問30 情報収集について

(MA)

「市の広報紙」、「インターネット」「知人、友人、同僚、家族」の順で多く、前回よりも「市の広報紙」と「インターネット」の差があまり無いことから、インターネットの需要が高まってきていることがうかがえます。各種イベント等の開催時には、市民の意欲を掻き立てるように効果的な情報発信に努める必要があります。

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
市の広報誌	222	39.43%	45.08%
知人、友人、同僚、家族	182	32.33%	35.24%
新聞、雑誌	127	22.56%	31.10%
テレビ、ラジオ	99	17.58%	21.06%
インターネット	198	35.17%	25.79%
チラシやポスター	71	12.61%	16.34%
職場や団体の広報誌	31	5.51%	7.48%
その他	71	12.61%	2.56%
無回答	60	10.66%	11.81%
計	1,061		

### 質問31 学習情報の提供について

(SA)

生涯学習をもっと盛んにしていくために、「講座や教室の内容や開催状況」、「施設の内容や開設状況」「サークルの活動状況や入会方法」についての情報提供を望む声が全体的に高く、全般的にインターネットに因る情報発信を望んでいます。特に講座等の内容・開催状況については、その情報の必要性を感じていることがわかります。情報提供を行う際には、地域住民が単に受け取るにとどまらず、興味・関心を持って生涯学習に積極的に関わることが

	回答数	割合	前回
<b>回答者数</b>	<b>563</b>		
講座や教室の内容や開催状況	199	35.35%	41.34%
施設の内容や開設状況	106	18.83%	15.35%
サークルの活動状況や入会方法	55	9.77%	16.73%
県や周辺都市、大学等の講座イベント情報	32	5.68%	4.92%
講師、指導者などの人材情報	25	4.44%	5.51%
図書館の蔵書や視聴覚資料の充実	31	5.51%	4.33%
民間の教育機会などの情報	27	4.80%	2.95%
その他	18	3.20%	2.17%
無回答	70	12.43%	12.60%
計	563	100.00%	

ができるよう、広報等の紙媒体のほかにも多様な媒体を活用し、ホームページ等で講座やサークルの活動紹介等を定期的に掲載・更新していくなど、有為な情報提供の方法を検討していく必要があります。

## 第2章 みどり市の生涯学習の現状

### 質問32 生涯学習活動を充実させるために必要なこと

前回同様「生涯学習に関する情報の充実」を求める声が48.85%で約半数を占めていました。情報提供については、前問で述べたとおり、その方法について工夫が必要です。また、各種講座の充実が必要だと考える市民も多いことから、多様化・高度化するだけでなく新たに生じてくる地域住民の学習ニーズを常に的確に把握し、それに応えた学習機会を積極的に提供していくことが求められています。

(MA)

	回答数	割合	前回
回答者数	563		
活動施設の充実	147	26.11%	24.02%
教室、講座などの充実	163	28.95%	31.89%
情報の充実	275	48.85%	50.20%
特になし	60	10.66%	8.46%
その他	22	3.91%	1.97%
無回答	38	6.75%	8.07%
計	705		

### 質問33 生涯学習の施設の内容や機能について

「交流、情報スペース」、「特別な機能を持つ部屋」、「小さな数多くの貸し室」を望む市民の割合が高い傾向にあります。市民の活動内容が多岐にわたっていることから、それぞれのニーズにあった部屋を数多く求める声がありました。施設の整備については、地域住民の学習拠点が形成され、様々な世代の市民が自由に交流し多様な学習を促進することができるように、関係施設間で相互の機能の広域的な連携・協力体制を構築するなど、総合的な観点から検討していく必要があります。

(MA)

	回答数	割合	前回
回答者数	563		
小さな数多くの貸し室	114	20.25%	20.67%
広い集会室	55	9.77%	8.86%
特別な機能を持つ部屋	173	30.73%	31.10%
防音室	48	8.53%	6.30%
交流、情報スペース	149	26.47%	32.68%
展示スペース	25	4.44%	5.91%
相談窓口	56	9.95%	10.24%
特になし	110	19.54%	17.32%
その他	20	3.55%	1.38%
無回答	42	7.46%	9.84%
計	792		

### 4. みどり市の生涯学習の課題と方向性

#### (1) アンケート結果から考えられる課題

「生涯学習に関する実態調査」の結果から、本市の生涯学習状況について現状を把握し、次の通り課題を整理しました。

##### ①学習機会の充実

本調査では、8割以上の市民が生涯学習の必要性を感じているものの、仕事や育児で忙しいことや、きっかけ・情報がないことから活動を行っていない（行うことができない）市民の割合が高いことがわかりました。市民一人ひとりが生涯にわたって学習を継続するにあたり、ライフステージによって求められる学習方法や手法が変わります。そのため、それぞれに応じた学習機会を提供することが重要となりますが、本市においては、学習者のニーズに即した生涯学習の機会が十分に確保されているとはいえない状況です。また、平成18年に改正された教育基本法には、「個人の要望」と「社会の要請」に応じていくことが新たに加えられたことから、生きがいや教養だけではなく、人権や健康、福祉、環境、消費生活、防災など社会的な課題についても積極的に学習機会を提供し、市民と行政が協働して地域課題を考え、その解決に向けて取り組んでいくことが必要です。

##### ②学習情報の収集・発信

生涯学習の振興を図るためには、生涯を通じて学習することの意義についての市民の理解を深め、自ら学ぶ意欲を喚起するための普及・啓発が大切です。学習者からの相談の際に適切な情報提供を行うことはもちろんのこと、多様化・高度化する学習内容に関する情報収集、提供等の機能を見直してインターネットをフル活用していくことが必要です。幅広い学習資源に関する情報を収集・整理し、加工・提供することは、社会教育施設の新たな役割であり、市民の生涯学習活動が活性化するための一助になると考えます。

##### ③生涯学習関連施設の充実

市民の生涯学習を支援するための施設は、教育・学習活動を推進し、心のふれあい、活気に満ちた民主的な地域づくりの拠点となるべきものであり、そのために市民の学習権を保証し、市民に教育的、文化的、健康的なサービスを提供するべき場所です。本市には、現在、公民館や図書館、文化ホール、博物館等の社会教育施設及びその他生涯学習関連施設が多数ありますが、個々の施設が行う学習サービスには限界や効率性の問題があります。今後は、関係施設間のネットワークを形成するなど、相互の機能の連携・協力体制を整備していくことを検討していく必要があります。